芦屋大学

http://www.ashiya-u.ac.jp/

[六麓荘キャンパス]

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町13番22号　TEL 0797-23-0661

臨床教育学部 ｜ 教育学科 ｜ 児童教育学科 ｜

経営教育学部 ｜ 経営教育学科 ｜

[大阪キャンパス]

〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町3番3号 OSビル16階　TEl 06-6364-3100

経営教育学部 ｜ 経営教育学科 ｜

芦屋大学

平成26年度 実施報告書

平成24年度 文部科学省 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備

産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実

この事業は学生の社会的・職業的自立に向けた取り組み実績のある大阪、兵庫、和歌山の14大学グループ(大阪府立大学、和歌山大学、兵庫県立大学、追手門学院大学、大阪音楽大学、大阪工業大学、大阪成蹊大学、関西外国語大学、摂南大学、帝塚山学院大学、大手前大学、神戸学院大学、大阪音楽大学短期大学部、芦屋大学)と地域の経済団体、企業、自治体や国等における産学協働の産業界等のニーズに対応した人材育成教育の改善・充実とそれを継続して支援できる人材育成体制整備をする取り組みです。

CONTENTS

目　次

001　目次
002　本学の現状と課題
　　本学の取り組み［仕事力の育成］

003　平成24年度［仕事力育成講座］とねらい
　　大学関係者と産業界メンバーとの交流会議
004　就活ドラフト
　　大学合同自己プレゼン大会
　　平成24年度　取り組みに関する総括

005　平成25年度［情報力基礎講座］［企業入門講座］とねらい
006　プレゼン大会
　　平成25年度　取り組みに関する総括

007　平成26年度［企業基礎講座］［企画力育成講座］とねらい
008　社会力調査
013　大学生の社会力育成と大学改革フォーラム
　　平成26年度　取り組みに関する総括

014　3年間の取り組みの総括

天職に向けて自分を伸ばす

本学の現状と課題

芦屋大学は伝統的にオーナー経営者の子弟が多く、就職希望者がほとんどいないという特殊事情があった。近年においては一般的な就職希望を持つ学生が大半を占めており、これを支援する体制を整備することが必要になったが、教職員がそれぞれ就職支援にどのように関わるかが把握できず、対応が必ずしも上手く言っているとは言えない状況にある。

また、基本的に教育の内容及び方法を大きく見直す必要があった。すなわち、家業を持つ学生と一般学生とでは育ってきた環境が異なるうえ、社会自体が大きく変化しているので、将来社会に出たとき、力を発揮できるようにする教育とは何かを問い直す必要があった。

しかし、長年に及んだ学内のやり方や意識を一挙に変えることは、かなりの困難を伴った。そのため、平成22年に新設された大阪キャンパスで、実験的なコースを設定し、外部の実業界等の協力を得て新しい授業内容と方法論を採用した授業を開始することとなった。

その特徴は自分の人生と仕事の関わりを考えさせることであり、そのための社会人としての心得を身につけさせることであった。通常の学生は大学で知識を学び、正解を知れば、社会でも通用すると考えがちである。それを社会では正解が存在しない問題が多いことからわからせるのは容易なことではなかった。

幸い文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」との出会いの中で、大阪キャンパスの実験事業から、全学に定着させるべき教育の内容及び方法の改革へと発展させることができた。

この事業は本年度で終了するが、芦屋大学ではさらにこれを来年度以降も発展、定着させるようにしなければならないと考えている。課題は多いが方向性は明確である。

大阪キャンパスで重点を置いている項目

1. 学生の発表能力、コミュニケーション力を伸ばす
2. 知識だけでなく、問題解決力、思考力を養う
3. 気の合わない人ともうまく協調して仕事をする体験をする
4. 服装、身なり、ルールの順守、挨拶などを社会人として身につける
5. 社会常識、マナーを身につける

本学の取り組み［仕事力の育成］

仕事力とは?

仕事力は、［基礎能力］［共通能力］［専門能力］の3つに大別できる。
［基礎能力］… 一般教養や読み書きそろばんといった基礎学力
［共通能力］… 「対人能力」「対情報能力」「対自己能力」から成り立つ能力
［専門能力］… 専門知識や技能、各企業固有のスキルなどのこと

特に「共通能力」はすべての職種の社会人にとって重要な能力であり、必要不可欠な能力と考える。共通能力とは、**［情報活用力］**である。情報活用力を身につけることで、既存の仕事のフレームワークをより使いこなすことができ、経験の少ない若年人材でも能力をフルに発揮できるようになる。また、枠組みがあることで業務の一般化・効率化ができ、モチベーションアップにつながる。同時に、自分や相手の伝えたい「情報」を的確に判断できるようになることでコミュニケーション能力の向上につながり、他者と協力して業務ができるようになる。情報活用力の育成をすることで、個人の能力を、より実務に生かせるようになり、仕事力の向上につながると考える。

平成24年度 ［仕事力育成講座］とねらい

従来の大学の授業が知識注入型に傾き、産業界のニーズに応える仕事力のある人材を育成できないという問題意識から、学生たちが将来の社会生活において、仕事力をつけられるようにする特別講座を試験的に開講することにした。
講義は

①情報活用に必要な論理力、数理力情報活用力を具体的に理解させる
②データベース等の情報の活用力、ビジュアルな表現力などを学ぶ
③主として口頭によるプレゼンテーションの実践訓練を行う

ことをポイントにしながら、ワーク形式を採用することにより、一方的な知識注入型でない授業を目指すこととした。

最終授業には、就活の場で「自己PR」を行うという仮想状況を設定し、経済団体、企業関係者をゲストに招いて、発表を聞いて講評をしていただいた。同時にそれらの社会人ゲストと学生たちが直接交流する機会を作った。

［仕事力育成講座］（15コマ・2単位）

1	基礎編	■【就職力】と情報活用力の関係
2		■【就職力】と情報活用力の関係
3		■【仕事の実践力】と情報活用力の関係
4		■「情報活用力診断テスト」及び「考える 伝える 分かち合う」情報活用力の理解
5		■論理力トレーニング・数理力トレーニング・情報検索
6	応用編	■データベースへの理解促進・数値分析・ビジュアル表現
7		■自己体験からのキャリアビジョンへの関連付け
8		■キャリアビジョンの言語化・チームビルディング研修
9		■他者への発表におけるフィードバックとコミュニケーションの体験
10		■プレゼンテーション研修・コミュニケーション研修
11		■自己PRの考え方、必要性・客観的分析ワーク
12		■「情報活用力診断テスト」及び企業への自己PR実習の演習・グループ分け
13	実践編	■プレゼンテーション実習
14		■プレゼンテーション実習2
15		■プレゼンテーション実践

大学関係者と産業界メンバーとの交流会議

日 時
平成25年
1月17日（木）
10：00～12：00

産業界の方々に対し実践的人材育成のための本学の取り組み状況の説明や、その一環である「仕事力の育成」についてご意見を頂くとともに、本学も参加する「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取り組みについての産業界の意見、「産業界が求める人材について」に対しての大学教育に対してのアドバイスなどを頂く会議を開催した。

この会議に参加した企業・団体は25社、大学・短期大学は8校である。

就活ドラフト

日 時
平成25年
2月7日（土）
15:00～17:30

仕事力育成講座の最後の講義として“就活ドラフト”を開催。成果発表の場である学生のプレゼンテーション実践が行なわれた。
この“就活ドラフト”　は参加学生に対して産業界が求める人材に育成し、働くことに対するきっかけをつくることを目的とし、産業界の方々の「これからの社会に求められる人材」について、直接意見を聞くことにより、将来的な社会で活躍できる人材につながることを目指した。

この“就活ドラフト”には40を超える企業・団体・大学の関係者の方が来られ、学生によるプレゼンテーション実践はディスカッションと自己ＰＲで行われた。成績優秀者には表彰もあり、この授業の最後には学生と参加いただいた産業界の方々と個別に今回の良かった点や悪かった点などをご指導いただく機会を得ることができた。

大学合同自己プレゼン大会

日 時
平成25年
3月15日（金）
14：00～17：00

株式会社カース・キャリアセンターと共同し開催。本学の学生が他大学の学生と共にプレゼンテーションを行い、社会人の方々から評価を頂いた。
その後の交流会では社会人の方々と学生が個々に意見の交換を行った。

平成24年度 取り組みに関する総括

初めての取り組みとして多くの成果があった。
それは

① 一方的な知識注入型の授業でなく、ワーク形式の授業が試みられたこと
②知識だけでなく、模擬的な場であっても、多くの社会人の前で発表する体験が出来たこと
③今まで機会がなかった社会人との交流して直接話ができたことなどがあげられる

一方反省点としては内容に改良すべき点があること、授業成果をチェックするテストの改良を要すること、広く芦屋大学以外の学生の参加が出来るような工夫が必要であることが挙げられる。

平成25年度［情報力基礎講座］［企業入門講座］とねらい

「情報力基礎講座」は学生たちに意図や目的に合わせた情報収集、整理、編集、新情報発信に至る基礎的な力を付けさせようとするものであり、「企業入門講座」は、会社の組織や仕事のやり方、さらには組織内での人間関係などを学ばせようとするものである。いずれも、従来のような知識注入型教育ではなく、ワーク形式を採用し、授業の中で企業関係者と交流を行うことにより、産業界のニーズに応える仕事力のある人材を育成することがねらいであった。また、学生たちの切実な問題を対象にして、体験型の手法を取り入れた事もポイントである。

［情報力基礎講座］（15コマ・2単位）

1	情報力とは	情報力の基本である「情報収集」⇒「情報分析」⇒「仮説組立」⇒「情報伝達」⇒「情報の共有化」の流れを理解する。 ※グループ討議の留意事項の確認、他人評価シートの配布。
2	キャリア情報とは	「自分の過去のキャリア情報」⇒「自分のキャリアの整理と分析」⇒「今後のキャリアの仮説」から、キャリア情報の必要性を学ぶ。
3	社会情報から	身近な課題として、現在の仕事力に関する課題と問題点を討議し、これから取り組む課題について共通認識を深める。
4	自分情報の分析整理①	様々なエクササイズを通じて、「性格」「能力・スキル」「価値観」 「やりたいこと」「行動パターン」について現状の自分を分析整理する。
5	自分情報の分析整理②	
6	他人情報の整理	インタビューなどを体験して、間接情報と他人評価の重要性、評価の難しさなどを学ぶと同時に、他人からの情報を整理する。
7	ショッピングセンターから情報を得る	情報の分析力を高めるため、ショッピングセンターを見学し、そこから得られた情報をグループで分析する。 また、視野を広げることの大切さを学び、自分の将来の仮説に役立てる。
8	面接風景から学ぶ	面接風景のビデオを鑑賞し、感じたことをグループで討議、映像から得られた情報をグループで分析する。
9	対人関係力①	「コミュニケーションとは」について考察し、コミュニケーションの基本的考え方を理解すると同時に、対人関係力を高める。
10	対人関係力②	社会ルールや対人関係マナーを学ぶ。具体的には、面接など就職活動に関連した内容に加え、名刺交換などの体験もする。
11	相手を知る	相手をポジティブ・ヒューマン・コントロール・アチーブメントの4つのタイプに分けて、相手に合った対応の仕方を学ぶ。
12	自己PR（予選）	全体で予選大会を開催。優秀者数名を全員で選出する。
13	自己PR（決勝）	予選を勝ち抜いた学生で決勝戦を行う。社会人審査員による 評価を受けることにより、社会人の視点を理解する。
14	今後の大学生活に活かす	この講座で身ついた力を全員で共有化すると同時に、 今後の大学生活に活かすことを全員で誓う。
15	個人別成長度合いの把握	「自己成長レポートの記入」と個人別評価カウンセリングを行い、自己成長度合いを確認する。

［企業入門講座］（15コマ・2単位）

1	公企業、私企業、公私混合企業などの区分、業界や業種、職種などの区別などを学ぶ。
2	現代社会の問題点や課題、社会的ニーズから、自分たちでどんなことをして貢献するか話し合う。
3	資本金や役員編成、SWOT分析など、事業計画まで作成する。
4	事業を遂行するにあたって必要な人材像を話し合う。
5	人材確保の方法を検討する。
6	実際に求人票をつくってみて、求人票の意図を理解する。作成した求人票は他のグループに提示し人材募集する。
7	身近な課題として、現在の就活に関する課題と問題点を討議し、これから取り組む課題について共通認識を深める。
8	面接風景のビデオを鑑賞し、感じたことをグループで討議、映像から得られた就活情報をグループで整理する。
9	他のグループの立ち上げたベンチャー企業に応募するエントリーシートを作成。
10	面接風景のビデオを参考にしながら、グループごとに面接の予行演習を行う。
11	作成した求人票とエントリーシートで、実際に面接を体験してみる（グループ×グループ）。
12	自分たちで課題整理を行った後、社会人に評価してもらう。
13	評価の難しさと他人からの評価の大切さを知る。
14	この講座で身ついた力を全員で共有化すると同時に、今後の大学生活に活かすことを全員で誓う。
15	「自己成長レポートの記入」と個人別評価カウンセリングを行い、自己成長度合いを確認する。

プレゼン大会

日時
平成26年
2月24日（月）
14：00〜17：00

昨年に引き続き、株式会社カース・キャリアセンターと共同し開催。本学の学生が他大学の学生と共にプレゼンテーションを行い、社会人の方々から評価を頂いた。

また、その後の交流会では社会人の方々と学生が個々に意見の交換する取り組みも行なわれた。

平成25年度 取り組みに関する総括

初年度である平成24年度には「仕事力育成講座」を開講したが、2年目にあたる本年度は仕事力の中核的内容である「情報力基礎講座」及び「企業入門講座Jの二つを大阪キャンパスで開講した。この二講座とも、他大学の学生も受け入れることとしたが、十分に趣旨が浸透せず、各講座とも一名ずつの参加にとどまった。しかし、わずかとはいえ異なる大学の風を感じ、かっ社会人の講師による実践的な授業を受けたことは、双方にとって得るところがあったと思われる。「情報力基礎講座」は、意図、目的に合わせてどのように情報を集め、編集し、それを新しい情報に組み立てるかを学ぶものであったが、大学教育が知識として理解させようとすることに重点を置くのに対して、この講座では、グループとして議論して方針を立て、協力してそのプロセスを実行するだけでなく、異なる考え方をどのようにまとめるかを学ぶ「体験的J方法がとられた。

このことは、個人で行う作業と異なり、組織的に協力して行う作業体験の少ない受講生たちにとって新鮮な経験であり、かつ彼らを社会人に導く成長につながるものであった。また、チームは事前の性格テストに基づいて「気の合わない組み合わせの人たち」を意図的に同一チームにした。従来気の合う人たちとだけと付き合う学生生活と異なり、好むと好まざるにかかわらず協力関係を築かねばならない社会生活では、これは非常に有効かつ大切な試みであった。「企業入門講座」は、取締役と執行役員、社長、専務、常務などの旧来からの呼称とCEO，COOなどの新たな役割、さらには典型的なラインスタッフ組織や、マトリックス組織、プロジェクトチームなどの指示・命令・調整などのありかたなどを、知識として学ぶだけでなく、チームごとにバーチャルな会社を作り、その中で社長の役割、部長の役割を体験し、会社の方針や人材募集の方針を決定するなどの作業を体験した。

さらにそれらを発表することにより、他のチームの批判をし、自らの方針等を批判されることにより、これらの役割分担の意味、方針の重要な要素、外部に理解してもらうための工夫等々の「知識以上の体験的理解」が、わずかとはいえ得られたと思われる。

従来大学の授業は知識と理論の習得が中心であった。しかし社会に出てよい働きが出来るようにするには、「自分で考え」、「それを他の人に理解してもらい」「異なる意見を理解し」「どのように調整し」「どのように決定してもらう、または決定するのか」を体験的に理解しその力をつけることが欠かせない。その意味で大学の授業内容及び方法の改革に一つの事例を示すことが出来たと思われる。

また、これらの受講をした学生たちは「成長ノート」を自ら記録させることにより、自分自身が成長したことが確認できるようになった。さらに指導教員がそのノートに基づきコメントを記すことにより、どのようなことを努力すべきかが学生たちにわかるような仕組みができた。このことは、大阪キャンパス中心の取り組みから、最終年に大学全体に取り組みに発展させるときに、大きな参考になると思われる。

平成26年度 [企業基礎講座] [企画力育成講座] とねらい

「企業とはこういう目的を持ち、こういう組織で活動している」と言った知識を学ぶのではなく、模擬的な会社をグループごとに作って、実際に社長や部長になって活動計画をつくることにより、企業を身近に理解する。また「目的に合致した情報を集め、それをさらに編集して企画をつくる」といった理屈を学ぶのでなく、どんなに気の合わない意見の違う人とでも、協力してコミュニケーションをはかれるようになり、目的に向けて協力する体験をすることが、企画力育成の基本であることを学ぶ。コミュニケーション力を養成し、キチンと自分の意見を持ちながら、違う意見をどう取り入れてゆくかを体験的に学ぶ。これが両講座に共通したねらいである。

[企業入門講座] (15コマ・2単位)

1	実習で学ぶこと グループ活動の練習	全体説明、グループワークの練習。
2	自己分析①	ゲームなどで自分を分析整理する。
3	自己分析②	自己分析を自己PRにつなげる。企業が求める自己PRの作成方法。
4	対人関係と他人評価	企業で必要な対人関係パターンを知る。他人評価の大切さを知る。
5	1分間スピーチ	人前で自分を表現。
6	相手を知る・企業を知る	企業について(私企業、公企業、公私混合企業など)。
7	企業を立ち上げよう	企業で必要な対人関係パターンを知る。他人評価の大切さを知る。
8	企業の人材確保を考える	企業内での役割分担を決める(社長、人事担当者など)、どんな人材が必要かを企業の立場で考える。
9	会社説明会とエントリーシート	他のグループに対して会社説明会を開催し、応募書類のエントリーシートを作成する。
10	社会人基礎力①	自己管理力、情報収集力、計画力。
11	社会人基礎力②	ストレスコントロール力、社会人基礎力のまとめ。
12	コミュニケーションスキル①	コミュニケーションの全体構図、第一印象の大切さ、話すスキルを学ぶ。
13	コミュニケーションスキル②	聴くスキル、ビジネスマナーやルール。
14	バーチャルな面接訓練で学ぶ	企業が求めている人材を把握する。
15	評価テスト	キーワードを3つ使って、この授業のまとめを自ら作成する。

[企業力育成講座] (15コマ・2単位)

1	実習で学ぶこと グループ活動の練習	全体説明、グループワークの練習、レポート作成。
2	考える力	知的生活術。情報収集術(新聞の読み方、読書の仕方、メモの取り方)モノの見方。
3	表現する力	文章の原則。書くことと考えること。情報の捨て方。テーマを決める⇒調べる⇒まとめる⇒発表する
4	発想の転換	逆を考えてみる、やってみる。問題を発見し、深掘りをしてみる。クレームは宝。
5	行動力	アイデアメモ・アイデアノート
6	異文化体験	新聞・書店・街での新鮮体験(街の歩き方)。
7	企画のヒント	独りブレインストーミング。情熱と思い込み。ウケるアイデア5原則。
8	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションの全体構図、第一印象の大切さ、話すスキルを学ぶ。
9	コミュニケーションの基礎②	聴くスキル、二人を取巻く環境、ビジネスマナーやルール、面接時の留意事項。
10	キャリア新聞の企画討議	企画の基本(キャリア新聞で何を誰に伝えるか、何のために発行するか)。
11	キャリア新聞の編集討議	キャリア新聞の具体的ページ編成を討議。
12	キャリア新聞の記事作成	取材やアンケート集計で具体的な記事を作成。
13	キャリア新聞のデザイン確定	ページ編成、デザイン、記事作成、写真配置などの決定。
14	グループ発表	「この授業を今後の大学生活にどう活かすか」についてグループ討議し発表する。情報を共有化する。
15	評価テスト	キーワードを3つ使って、この授業のまとめを自ら作成する。

社会力調査

日時
平成26年
9月17日(水)
9月18日(木)

本学の学生と他大学の学生を比べ、本学の学生の社会力がどの程度にあるのかを知るために、全学生を対象にアンケート調査を実施した。調査項目は進路・職業観・日々の生活サイクルなど広範囲に及び、客観的に学生の実態を把握することが出来た。本学ではこの調査をもとに、今後の授業内容のあり方や教育手法の見直しに役立てていく。なお、この調査では他大学の協力も得ることができ、各項目別に比較検討をすることが出来た事も成果である。

対象者全体の属性

〈1〉全体の概要 (件数)

	総件数	学年				性別		居住	
		1年	2年	3年	4年	男性	女性	自宅	自宅外
芦屋大学	**320**	**114**	**56**	**91**	**47**	**220**	**98**	**256**	**59**
その他大学	153	48	31	72	1	51	102	125	28
合計	473	162	87	163	48	271	200	381	87
芦屋大学の比率	67.7	70.4	64.4	55.8	97.9	81.2	49.0	67.2	67.8

※大学4年生は、他大学のデータ数が少なく比較できないため、以降、報告内容から除外している。

〈2〉性別構成 (%)

	芦屋大学	他大学
男子	69.2	33.3
女子	30.8	66.7

〈3〉学年別構成 (%)

	芦屋大学	他大学
1年生	37.0	31.6
2年生	18.2	20.4
3年生	29.5	47.4
4年生	15.3	0.6

〈4〉学部別構成 (%)

芦屋大学	臨床教育学部	39.3
	経営教育学部	19.7
他大学	総合文化学部	8.5
	現代社会学部	7.0
	教育学部	5.3
	メディア芸術学部	4.9
	経営学部	2.1
	その他	11.2
	不明	2.1

〈5〉居住別構成 (%)

	芦屋大学	他大学
自宅	80.5	81.7
自宅外	19.5	18.3

将来のことを決めている

1)将来を決めて入学

芦屋大学の学生は、学部にもよるが、入学当初から将来の目標を決めている学生が64.2%(他大学50.0%)と他大学に比べてその傾向値が高い。ー表1

【表1】

	芦屋大学	他大学	差
1年生	64.2	50.0	14.2
2年生	58.0	37.9	20.1
3年生	62.2	45.7	16.5

2)希望職種は、理想から現実へ

代表的な希望職種を見ると、学部にもよるが、芦屋大学は学校教員を目指す学生が多く、他の職種を希望する学生が少ない。

また、他大学も含め、学校教員への希望は年々低くなり、逆に、事務職・企画職・営業販売職のウエイトが上がる傾向がみられる。

ー表2、表3

【表2】芦屋大学

	1年	2年	3年
事務職	6.8	4.1	10.0
企画職	3.0	4.1	8.3
営業・販売職	6.8	10.8	25.0
学校教員	43.9	37.8	31.7

【表3】他大学

	1年	2年	3年
事務職	17.2	22.7	24.8
企画職	14.1	15.9	28.6
営業・販売職	21.9	25.0	20.3
学校教員	10.9	2.3	2.3

進みたい業界

1)教育と旅行が人気 ～芦屋大学～

「教育関係」「旅行」「ホテル」「航空」に人 気があり、入学当時の「将来の夢や目的」が明確に表れた結果となっている。

しかし、学年が進むにつれ「教育関係」は低下 し、逆に、「旅行」や「ホテル」は、ますます意欲が増す傾向である。

2)食品・出版・広告が人気 ～他大学～

一般的な人気業界の傾向は、露出度が高くやや 派手な「広告」「出版」「食品で、その他「商社」「教育」「小売」にも人気がある。

この人気度は、入学当初からあまり変化が見られない。

【表1】芦屋大学

	全体	男性	女性
1位	教育	教育	教育
2位	その他	その他	旅行
3位	IT・食品	IT	その他
4位		食品・家業	航空
5位	旅行		ホテル

【表2】他大学

	全体	男性	女性
1位	食品・出版	商社	食品・出版
2位		広告・教育	
3位	広告		広告
4位	教育	食品・出版	小売・教育
5位	商社		

【人気のない業界ー芦屋大学】

家電、自動車、
医薬品・化粧品、電力ガスなど

【人気のない業界ー他大学】

運送、自動車、ホテルなど

社会力調査

将来の相談について

1）芦屋大学は相談比率が高い

他大学に比べ、芦屋大学の学生は、将来について「相談している」が全体で61.3％で他大学に比べ10ポイント高い。この傾向は男女とも高く、男性は59.0％で他大学に比べ19ポイント高くなっている。

しかし、1年生．2年生の時に高く、3年生になると他大学よりも低くなっていて、学年経過につれ相談する学生が減少する。－表1

【表１】相談の有無

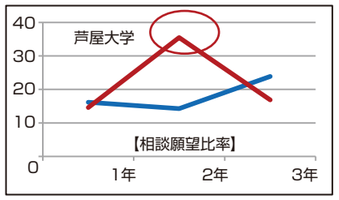
	芦屋大学　〈　〉は他大学の数値（%）		
	全体	男性	女性
相談している	61.3〈51.3〉	59.0〈40.0〉	67.0〈56.9〉
相談していない	21.7〈28.9〉	23.0〈42.0〉	18.1〈22.5〉
誰かに相談したい	17.0〈19.7〉	18.0〈18.0〉	14.9〈20.6〉

2）相談サポートは2年生がカギ　～芦屋大学～

将来について「誰かに相談したい」という相談願望は、芦屋大学は2年生の　時期が最も高く、3年生で減少する傾向にある。

一方、他大学では、2年生での相談願望は低いものの、学年経過につれ上昇、3年生で最も高くなっている。

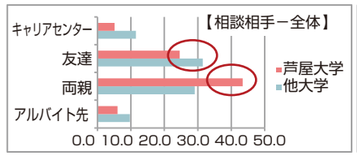
このことから、芦屋大学では、相談比率も相談願望比率も2年生が最も高い傾向にある。

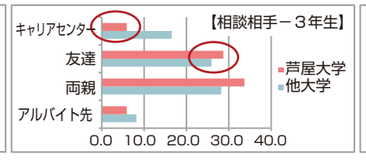


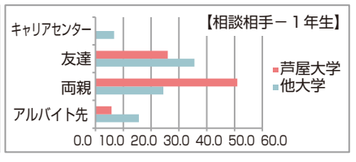
相談相手について

1）相談相手として友達がポイント

「両親」に次いで、相談相手として比率が高いのは「友達」である。また、芦屋大学では、「友達」への相談は、学年経過とともに上昇するのに対して、他大学では「両親」のウエイトが上昇する。







働く意義や目的

1）自己成長意欲が高い ～芦屋大学～

全体的に「収入を得るため」が最も関心が高い（芦屋大学34.4％、他大学39.1％）。

「仕事をするということはどういうことですか」という質問に対して、芦屋大学の学生は他大学に比べ、「知識や視野　を広げるため」19.3％（他大学15.4％）、「自分の能力を伸ばすため」19.1％（他大学13.7％）の項目が高く、社会に出て働くことで自己成長したい意欲が高い。

一方、他大学の学生は、「収入を得るため」39.1％（芦屋大学34.4％）、「社会的地位を得るため」12.0％（芦屋大学8.2％）の項目で芦屋大学を上回っており、自分の成長よりも現実的な収入や地位に関心がある。以上の傾向は、学年別でも性別でも大差が見られない。

	芦屋大学	他大学	差
大学で学んだことを活かす	8.0	6.4	1.6
収入を得るため	34.4	39.1	-4.7
社会的地位を得るため	8.2	12.0	-3.8
自分の能力を伸ばすため	19.1	13.7	5.4
仕事が好きだから	8.5	9.4	-0.9
知識や視野を広げるため	19.3	15.4	3.9

仕事選びで重要と考える事

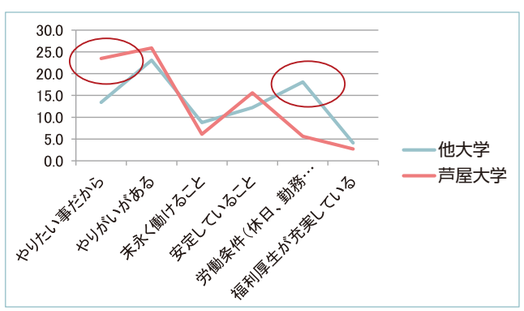
1）「やりたいこと」を重視 ～芦屋大学～

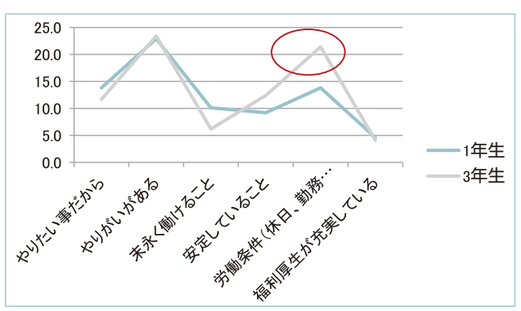
他大学と比べて差が出たのは、「やりたいことだから」　が 23.5％（他大学 13.4％）と他大学より高いこと、また、「労働条件（休日、勤務時間）」は 5.6％（他大学 18.1％）で他大学に比べ低い結果となった。

このことから、芦屋大学の学生は、やりたいことかどうかが重視され、他大学の学生は、労働条件など現実的な条件を重視している傾向にある。

2）夢や目標から現実重視へ ～他大学～

他大学の労働条件を重視する傾向は、3 年生で高くなっていることから、入学当初は「やりたい事」「やりがい」を重視しているが、学年の経過とともに、現実的な労働条件が重視されるようになっている。





働くために必要と思うこと

1）「ルールや規律」「時間管理」を必要と考えている ～芦屋大学～

「働くために必要な項目」では、「ルールや規律の厳守」と「時間管理」において、芦屋大学が、それぞれ4.3ポイント、3.1ポイント高くなっている。この傾向は、特に女子大生に顕著に表れている。このことから、社会人基礎力に対する意識は高いものの、日頃の大学生活の中で不足している力と感じられている。

	芦屋大学	他大学	差
自己管理や健康管理	13.6	12.2	1.4
時間管理	14.7	11.6	3.1
ミスを次につなげる行動	5.4	7.6	-2.2
ルールや規律の厳守	11.2	6.9	4.3
打たれ強さ	3.4	6.1	-2.7
ストレスコントロール力	2.8	5.3	-2.5

2）他大学でもより高度

他大学では、「ミスを次につなげる行動」や「打たれ強さ」「ストレスコントロール力」が芦屋大学に比べて高くなっている。したがって、他大学の学生は、社会に対してより現実的厳しさを感じている。

働くために必要と思うこと

1）大学に求めるものは、「コミュニケーションスキルの育成」

芦屋大学も他大学も、学生が大学に求めるものは、「コミュニケーションスキルの育成」「体験型・参加型の授業」「社会人との交流機会」である。

ただし、芦屋大学では、「体験型・参加型の授業」が 16.0 と他大学に比べ 3.5 ポイント高くなっている。

これは、他大学ではある程度取り組まれていることで、芦屋大学においては普段の授業の課題の一つと考えられる。

一方、他大学では「社会人との交流機会」が 18.5 と最も高い要望となっているのに比べ、芦屋大学では 13.6 と 4.9 ポイント低くなっている。

このことから、他大学の学生はより実務的なスキルアップを期待していると思われる。

	芦屋大学	他大学	差
コミュニケーションスキルの育成	17.1	15.4	1.7
体験型・参加型の授業	16.0	12.5	3.5
社会人との交流機会	13.6	18.5	-4.9
問題解決能力の育成	11.5	9.8	1.7
職業観や就業観の育成	8.8	8.2	0.6
語学力向上のサポート	8.3	7.3	1

社会力調査

部活・サークル活動

		芦屋大学	他大学	差
部活・サークルに	入っている	61.6	45.4	16.2
	入っていない	36.8	50.7	-13.9
どんな部活・サークル？	運動系	80.3	35.6	44.7
	文科系	14.1	38.4	-24.3
	委員会・その他	5.6	26.0	-20.4

1）運動系は強いが文化系や社会的活動が低い ～芦屋大学～

芦屋大学では、部活やサークルに入っている学生がアンケート回答者の61.6％に達している。

一方他大学は、部活・サークルに入っている学生は 45.4％で半数を下回っており、特に女子大学生に「入っていない」と答えた学生が多い。また、芦屋大学では、学部の影響もあると思われるが、運動系の部活やサークル活動をしている学生は 80.3％に達していて、他大学の 35.6％を 44.7 ポイント上回った。

一方、委員会などの社会組織的活動は、他大学は 26.0％に達しているのに対して、芦屋大学では 5.6％しかない。文科系の部活・サークルでも同じ傾向がみられ、今後の課題と考えられる。

授業に対する態度

		芦屋大学	他大学	差
授業に遅れたことがない	全体	47.1	36.8	10.3
	1年生	52.3	39.6	12.7
	3年生	43.3	34.7	8.6
	1年生→3年生	9.0	4.9	-4.1
授業の合間の過ごし方	友達と会話	71.8	55.8	16
	一人	10.0	15.5	-5.5
	図書館など	6.1	14.4	-8.3
提出物は期日内に提出	全体	80.2	66.4	13.8
	1年生	82.7	57.1	25.6
	3年生	77.9	78.9	-1.0
	1年生→3年生	4.8	-21.8	-26.6

1）時間管理は良好 ～芦屋大学～

芦屋大学では、「授業に遅れたことがない」と答えた学生が全体で 47.1％で、他大学の 36.8％に比べ 10.3 ポイント高く、授業への期待と時間厳守が守られていると思われる。

しかし、この傾向は年数がたつにつれて低下しており、1 年生と 3 年生では 9.0 ポイントの差がある。

2）3年間で風土低下 ～芦屋大学～

「提出物は期日通りか？」に対しても、芦屋大学は全体で 80.2％と他大学に比べ 13.8 ポイント高い。しかし、3 年生になるにつれて減少し入学 3 年間で 4.8 ポイント低下している。

一方、他大学では、逆に 3 年間で 21.8 ポイント上昇し、3 年生では逆転している。

昼食について

		芦屋大学	他大学	差
昼食をとっている		80.3	89.4	-9.1
昼食は誰と？	友達	69.7	74.1	-4.4
	部活サークル仲間	19.3	6.8	12.5
	一人	7.3	15.4	-8.1
学食の利用	ほとんど毎日	39.1	21.5	17.6
	時々	41.6	45.6	-4.0
	利用しない	19.4	32.9	-13.5

1）部活・サークル活動が昼食に影響

昼食をとっている学生は、芦屋大学では803％、他大学89.4％と9.1ポイント低くなっている。

部活・サークル活動に影響されていると思われる。

逆に、「誰と昼食を」の質問に対しては、「一人」と答えた学生が7.3％（他大学15.4％）と低く、部活サークル活動の仲間と一緒に昼食しているケースが多くみられる。

2）学食利用率は高い

学食の利用については、大学周辺の環境にもよるが、「利用しない」と答えた学生が19.4％（他大学32.9％）と低い結果となり、学食の利用率は高いと考えられる。また、他大学でみられる傾向として、2年生の時に利用をやめる学生が多いことも分かった。

居住環境と食事状況

		芦屋大学	他大学	差
3食（朝・昼・夕取っている	全体	62.5	65.1	-2.6
	自宅	61.7	68.5	-6.8
	自宅以外	71.4	50.0	21.4
朝食は一人で	全体	51.6	49.0	2.6
	自宅	45.2	45.2	0.0
	自宅以外	78.2	73.7	4.5
夕食は外食で	自宅	10.9	4.7	6.2
	自宅以外	15.3	12.9	2.4

1）3食取っている学生は約60％強 ～全体～

一日3食（朝・昼・夕）取っている学生は約60％強の結果となった。

芦屋大学では、自宅から通っている学生よりも、下宿など自宅以外から通っている学生の方が3食取っている学生が多い結果となった。

また、芦屋大学では、部活やサークルの関係と考えられるが、夕食の外食率が他大学に比べ高くなっている。

起床＆就寝時間、睡眠時間

		芦屋大学	他大学	差
就寝時間	12時頃	35.0	34.0	1.0
	夜1時	22.6	32.1	-9.5
	夜2時	14.9	19.9	-5
起床時間	7時頃	35.6	39.5	-3.9
	8時頃	33.4	33.6	-0.2
	9時頃	9.5	12.5	-3.0
睡眠時間	約6時間	40.9	49.0	-8.1
	7時間以上	36.7	24.2	12.5

1）早寝早起きの習慣がある

全体的に「就寝時間」は平均12時頃が最も多い。芦屋大学の特徴は、夜1時・2時に就寝する学生が少なく、あまり夜更かししていない。

また、起床時間は、全体的に7時頃と8時頃が約70％を占めている。

2）睡眠時間は7時間以上

「睡眠時間」では、芦屋大学の学生は77.6％の学生が6時間から7時間で、他大学では73.2％になっている。芦屋大学の学生は、7時間以上の学生が多く、睡眠時間は他大学に比べ長い傾向である。

運動について

		芦屋大学	他大学	差
運動	している	40.1	9.7	30.4
	時々	35.2	26.0	9.2
	何もしていない	24.8	64.3	-39.5
運動時間（1週間）	1時間以内	26.3	56.3	-30.0
	1時間から5時間	44.1	32.5	11.6
	6時間から10時間	12.1	4.8	7.3
徒歩時間（一日）	一時間以内	54.5	70.5	-16.0
	約2時間	23.3	18.5	4.8

1）1時間以上の運動をしている

「運動について」は、芦屋大学と他大学で学部の影響もあると思うが大きく差が出た。

「何もしていない」学生が、芦屋大学では 24.8％しかいないが、他大学では 64.3％の学生が何もしていないと回答した。

「運動をしている」と答えた学生でも、運動時間については、他大学の学生は 56.3％が 1 時間以内できわめて短時間の運動であるのに比べ、芦屋大学では 1 時間以上運動している学生が 44.1％と高い。

また、大学の立地条件にもよるが、芦屋大学の学生は他大学に比べ、徒歩時間も長い。

健康管理

		芦屋大学	他大学	差
体重が気になる	気になり毎日管理している	29.2	17.6	11.6
	気になるが管理はしていない	45.8	49.7	-3.9
	気にならない	24.7	30.7	-6.0
	男子（気になる）	25.5	7.8	17.7
	女子（気になる）	38.2	22.5	15.7
その他	手洗い・うがいをしている	49.7	55.9	-6.2
	病気をした（半年間）	32.0	19.1	12.9

1）体重管理はしっかり

「体重が気になるか」の設問に対して、芦屋大学の学生は、毎日管理している学生が 29.2％（他大学 17.6％）、管理はしていないが気になる学生を含めると 75％（他大学 67.3％）と他大学に比べて高い結果となった。

また、この傾向は、男子学生・女子学生にも同様の結果となった。

2）健康管理は弱い

しかし、「手洗いやうがい」などの日頃の健康管理は、芦屋大学49.7％（他大学55.9％）で、他大学に比べて6.2ポイント下回った。

また、「半年間で病気したか」の設問も他大学に比べ12.9ポイント高くなっている。

アルバイトについて

		芦屋大学	他大学	差
アルバイト	毎日している	20.3	7.2	13.1
	時々している	50.5	66.4	-15.9
	ほとんどしていない	5.1	7.2	-2.1
	全くしていない	24.1	16.4	7.7
時間／週	5時間以内	18.8	12.1	6.7
	6時間～10時間	33.2	28.2	5.0
	11時間～15時間	13.9	20.2	-6.3
	16時間～20時間	13.0	21.0	-8.0
	21時間以上	21.1	18.5	2.6

1）「している学生」と「まったくしていない学生」の2極分化

アルバイトをしている学生は、芦屋大学20.3％（他大学7.2％）で13.1ポイント高くなっている。一方、まったくしていない学生も、芦屋大学24.1％（他大学16.4％）で7.7ポイント高い。

このことから、芦屋大学では、毎日アルバイトしている学生と全くしていない学生の2極化の傾向にある。

2）短時間が多い

一週間のアルバイト時間については、10時間までの短時間アルバイトは芦屋大学の学生にみられる傾向で、他大学は10時間以上のアルバイトが多い傾向にある。

社会力調査

時間管理

1）時間管理力は高い

「10分前には待ち合わせ場所に行く」と答えた学生は、芦屋大学58.6%（他大学49.3%）で9.3ポイント高い。また、「時々遅れる」と答えた学生も他大学より少なく、時間に関しては守られている傾向である。

		芦屋大学	他大学	差
待ち合わせ	10分前にいく	58.6	49.3	9.3
	時々遅れる	32.2	42.8	-10.6
スケジュール管理	手帳で管理	40.8	66.5	-25.7
	スマホで管理	34.4	12.9	21.5
	パソコンで管理	1.9	1.3	0.6
	管理していない	22.9	19.3	3.6

2）スマホ派

スケジュール管理では、他大学と特徴が分かれた。
芦屋大学は手帳よりもスマホで管理している学生が多く、他大学では逆に手帳による管理が目立った。また、パソコンによる管理は全体として2%弱で、今の若者はパソコンは使わなくなっている。

大学生の社会力育成と大学改革フォーラム

日 時
平成27年
2月27日（金）
13：00～16：00

「平成24年度産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に於ける本学の取り組みのまとめとして、"大学生の社会力育成と大学改革フォーラム"を六麓荘キャンパス国際会議場で開催。このフォーラムには産業界から約20社の参加者があり、本学がこの3年間で取り組んできた仕事力を身に付ける取り組みについて、評価を得た。

また、「芦屋大学生の社会力調査結果報告」を取り組み内で行い、併せて成果を報告。これについても評価を得た。取り組みの成果発表後に行われたパネルディスカッションでは、本学の教職員・学生だけでなく、産業界、他大学の関係者・学生の方にもご参加いただき、意見の交換を行った。
このフォーラムの成果は、次年度以降に本学で行われるキャリア教育の定着にも活かされる。

平成26年度 取り組みに関する総括

本年度の具体的事業としては、「企業入門講座」を六麓荘において開講し、「企画力育成講座」を大阪キャンパスで行った。それぞれ外部講師と学内の講師との協力により行い、従来からと同様に、一方的な講義に終わるのではなく、学生たちに考えさせ、議論させ、一つの結論に至る協力関係を体験させることにより、コミュニケーション力、自立心、協調性、論理的思考力などの社会人としての能力を育てる試みを行った。

当初から先行していた大阪キャンパスでの取り組みだけであった段階から、本年度は六麓荘での授業が始められたことが一つの進展であった。ただ、大阪キャンパスでの授業を、従来通り他大学の学生も受け入れ、六麓荘側からも学生を受け入れることを考えて、19時開始の夜間授業にしたことが、かえって学生の負担を大きくして、途中で脱落した学生たちがでたことは残念なことであった。

この事業では、大学の目的、学部学科の設置目的に合致した教育内容と教育方法に授業を見直すことと、キャリア教育の学内定着を図ることを狙いにしてきたが、諸般の事情から、FD，SDなどを来年度に持ち越した。しかし、他大学の学生と比較した芦屋大学の学生の特性調査や、産業界や他大学の関係者のご協力のもとに、しめくくりの発表会が学内で実施出来たことは、今後につながる成果であった。

3年間の取り組みの総括

この事業の開始の前に、芦屋大学の授業改革のテストケースとして、大阪キャンパスで開始したのが平成22年4月であった。この基本的な考え方は「建学の精神」と「キャリア教育の導入」であった。そのために、服装から挨拶の心得に至るまで社会人になる為の訓練の視点を入れた。

さらに、知識を得るための一方的な講義に終わることがないように、学生自身に考えさせ、議論させ、共同で作業をする工夫も導入した。そこに大きなチャンスが生まれたのは、文部科学省事業としての本事業の開始であった。このあと押しのおかげで、単に大阪キャンパスでの試験的取り組みから、全学への定着への道筋がつけられることになった。

本学は長らく就職支援組織がない歴史を持っていたため、就職支援が十分に定着していないのみならず、キャリア教育が古い職業指導学的観念に置き換えられて理解される傾向がないとは言えなかった。この立ち遅れた状況から全学的改革へ、来年度以降も進んでゆかねばならない。

この事業を通じて、学生たちの自己成長記録とそれに対する指導教員のコメントは、学生たちが自分が成長して力がついてきたという自信につながる手法として評価できる。さらにこれを発展させてゆくことを考えてゆきたい。

また、芦屋大学の学生自体の生活や考え方を他大学のそれと比較できる調査が行えたのも大きな成果である。なぜそのような特徴が出るのか、大学の取り組みを見直す大きなきっかけになる。今後はこれをもとに大学の改革すべき点を学内で議論し、実施に移してゆく必要がある。

本事業の取り組みは、このような点で大きな力になったと思われる。

ホームページでも情報を公開しています。

URL http://www.ashiya-u.ac.jp/monkasho_jigyo/　芦屋大学　検索

アクセス手順

1 芦屋大学 > 2 GPなどの取組みに関するページ > 3 「平成24年度産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」『産官学地域協働による人材育成の環境整備と教育の改善・充実』

からもご覧いただけます。